

矢作川流域圏懇談会通信

R6 市民部会編 vol.2



発行日：令和6年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第19回市民部会WGを開催しました！

第19回市民部会WGでは、事例集交流会の開催結果と多摩川流域セミナーのお知らせ、矢作川感謝祭および三河湾大感謝祭の出展内容の共有、水道や農業に関する情報共有・意見交換を行いました。

日時：令和6年8月30日（金）14:00～16:30

会議場所：豊田市崇化館交流館 第1研究室

参加者：14名（内オンライン参加2名） ＊事務局含む



◆主な会議内容

1. 事例集交流会の開催結果の報告

7月6～7日にかけて開催した事例集交流会の内容を報告しました。

会場の鳥羽市立海の博物館にはこれまでの事例集交流会の中で最多の41名が集まり、多様な取材対象者と寄稿者、関連する活動団体の報告を聞き、意見交換を行いました。翌日には答志島でエクスカーションを実施しました。

2. 多摩川流域セミナーのお知らせ

11月30日に開催を予定している多摩川流域セミナーについて説明しました。

午前は会場周辺を散策し、河口部の冬鳥や干潟の状況を確認し、午後からセミナーを開催する予定です。

矢作川流域圏懇談会からは蔵治先生、洲崎氏、松沢氏、蔭山事業対策官が発表します。

3. 矢作川感謝祭および三河湾大感謝祭の出展内容

9月22日に開催される矢作川感謝祭と10月6日に開催される三河湾大感謝祭の出展内容について共有しました。

矢作川感謝祭では①流域内の食材を使用したおにぎりや他団体の方と協力してジビエソーセージ、旬の野菜、ビール、アイスの販売、②石川組合長による三河湾の生き物水族館、③矢作川クイズを実施することを共有しました。

三河湾大感謝祭では①海苔の食べ比べ、②石川組合長による三河湾の生き物パネル展示、③矢作川クイズを予定していることを共有しました。

4. 水道や農業に関する情報共有

未来をつくる給食♥Foods for Children 愛知 藤永様より活動紹介とオーガニック給食の推進に関する情報共有をしていただきました。

子供の給食に安心安全なものを提供しオーガニック給食をすることで様々なメリットがあります。

①子どもたちの心身が健康になる ②環境、生物多様性の保持 ③温暖化対策 ④農業振興 ⑤地域経済の発展 ⑥魅力のある町

5. 食を通じて矢作川流域を知っていただくためのツアー企画

「食を通じて矢作川流域を知っていただくためのツアー」を検討していくことを話し合いました。山の食材や海の食材の流域全体を巡るようなツアーの開催を検討しています。来期以降に詳細に検討していくことを話し合いました。



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●事例集交流会の開催結果の報告

- ・2024年7月6日に鳥羽市立海の博物館で事例集交流会を開催した。翌日の7日には答志島内にて奈佐の浜海岸のゴミの状況や奈佐の海岸周辺の湿地帯に生息するトンボと湿地環境の変遷について説明を聞いた。また、海女小屋で新鮮な魚を食べながら海女さんの貴重な話を聞いた。（事務局）
- ・小田氏の話提供の中で「樹木が吸い上げる水の量が過剰なため、川の水がなくなってしまう」という話があった、森を適切に手入れすることの大切さを感じた。（鈴木）
 - ▶これまでの二次林は常に人が伐採することで手入れしてきた。現在は伸び放題になっているため素人では切れない状態になっている。巨木化した木が水を吸って重くなっている。地面に圧がかかるため崩れる原因になるのではないか。（山本）

●多摩川流域セミナーのお知らせ

- ・11月30日に開催する多摩川流域セミナーは多摩川の大師河原干潟館で開催されることを報告した。午前は多摩川河口部の冬鳥や干潟を観察し、午後は各懇談会からメンバーを選出し話題を提供した後、会場全体で意見交換する予定である。（事務局）
- ・矢作川と多摩川を空中写真から土地利用や河川利用の違い等を比較した。たとえば、固定砂洲や自由砂洲といった違いがみられた。（松沢）
 - ▶固定砂洲と自由砂洲はどういった違いがあるのか。（光岡）
 - ▶河道の形状や砂の質が原因と考えられ、固定砂洲の場合は河川敷を公園等で利用することが多いと考えられる。自由砂洲の場合は砂洲が動いてしまうため河川敷の利用は難しい。（松沢）
 - ▶流域面積は同程度に対して、人口密度が違うことが原因と思われる。多摩川は河川敷を公園利用等のために整備していった。（近藤）

●矢作川感謝祭および三河湾大感謝祭の出展内容

- ・おにぎりに使用するお米、海苔、塩は矢作川流域の恵みで採れたものを使用している。みなさまに矢作川流域の恵みを感じていただき、流域に住む全ての人に関係していることを知っていただきたい。（鈴木）
- ・海苔は矢作川と知多の海苔を使用する予定である。地域ごとや青混ぜ海苔でも違いがある。（鈴木）
- ・使用するお米は無肥料、無農薬の自然栽培米（ミネアサヒ）を使用していることをアピールしたい。（山本）
- ・ご協力していただける方々のキャッチコピー等はしっかりとアピールしていきたい。（山本）
 - ▶ご協力していただける方やおにぎりに関するPOPを作成し、みなさまにアピールする予定である。（事務局）

●水道や農業に関する情報共有

- ・ネオニコチノイド系の農薬の基準が引き上げられたため、グリホサート（除草剤）の基準が引き上げられ、食の危険性が高まっている。（藤永）
- ・ネオニコチノイドと農業の観点に関する公開講座を過去に開催している。とても良い働きかけだと思う。（松沢）
- ・有機農家はお米の価値等が安価で、子供への継承も難しく、利益が得られない。そうになると農薬を使わざるを得ないという悪循環が生じている。個人的にはもっと有機農産物に価値をつけるべきと考える。（松沢）
- ・岡崎市は有機農業の面積を増やす必要がある中で、冬にからし菜をまいて、除草の手間を省くような稲作をやっている方がいる。使用する農家さんが広まっていけば、有機農家が多くなるかもしれない。（藤永）
- ・公開講座で食のテーマを予定している。今までの公開講座にもつながり、安価なものを食べて健康を害するのか、有機が良いのか、フェアトレードについて等をよく考える必要があるのではないかと。（近藤）
 - ▶流域圏の市民の方に知っていただき、流域圏内でこういったものが作られているのかを知り、自分でも作ってみたいと考える方が出てきたらよいと思う。（鈴木）
- ・海岸ゴミの問題のひとつに人工芝がある。野芝より人工芝の方が安いのは文科省が人工芝だと補助金が出ているため安くなっていることが原因のひとつと考える。（近藤）

●食を通じて矢作川流域を知っていただくためのツアー企画

- ・今期は多摩川流域セミナー等もあり、議論する時間が設けられない状況である。来期以降も含めてじっくり検討していく必要がある。（近藤）
- ・回数をこなすのではなく、いいツアーになるように考えていきたい。（鈴木）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

